

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019670012		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームわっかない絆 ユニット雅		
所在地	稚内市中央3丁目6番1号		
自己評価作成日	平成31年3月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

稚内駅ビル内にあり、同法人の高齢者向け住宅も併設され連携をとっています。公共交通機関の利用しやすく、ご家族や知人の方も訪ねやすく、地域のイベントにも参加しやすい環境にあります。地域や社会との繋がりを維持、継続できる様支援して行きます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0196700124-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホームわっかない絆」は、JR稚内駅に併設しているビル「キタカラ」複合施設の3階にある2ユニットの事業所である。4、5階は同一法人経営のサービス付き高齢者住宅になっている。開設して6年が経ち、管理者は本部のエリアマネージャーに相談しながら運営推進会議や災害時に町内会や関係機関の協力を得て運営している。建物ビルの1、2階は市民交流の場で利用者は手芸教室の展示を見学したり、1階のカフェでコーヒーを楽しむ、コンビニエンスストアやビル前のスーパーで買い物をするなど周辺が馴染みの環境になっている。暖かい時期には、駅周辺でイベントがあれば積極的に出かけている。「平和折り鶴祭り」には利用者も参加して千羽鶴を折り、商店街アーケードに飾っている折り鶴を見学し、稚内南神社祭典、みなと南極まつりなどの催しに参加して地域の住民や知人と交流している。事業所内では研修で学びを深めながら、特に利用者の行動を制止しないケアを重点的に行っている。ほぼ全員が市立病院の通院を継続し事業所に対応している。家族の協力も得ながら外出の機会を作り個別の意向や嗜好を大切に支援している。手作りのバイキングで好きな料理を選んでもらい、入浴では毎回湯を交換し湯船に浸かって楽しめるように配慮し、職員は日々温かな姿勢で利用者に接している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と一緒に考えた理念がある。理念カードをネームプレートに蛍光し実践に取り組んでいる。	事業所独自の理念に地域と関わりが持てるよう支援する内容があり、近隣住民との交流を実践している。今回は研修の中で理念に触れて確認している。今後も年に1～2回は職員間で理念を話し合い共有を深めたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りやイベントなどに参加している。入居者と一緒に千羽鶴を折り、平和祭りにアーケードに展示してもらっている。	日中の参加しやすい地域の各イベントを見学し、開催があれば児童から中学生までの「南中ソーラン」踊りを見て楽しんでいる。またイベント広場で何かあれば気軽に出かけている。事業所の敬老会にはボランティアの催しもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々のケアの質を上げるため認知症の理解に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて地域で考えられる防災について検討している。	定期的に会議を開催し、インフルエンザ、外部評価、防災などのテーマで意見を交換している。今回建物内で緊急の誤報から近隣の人が駆けつけ、改めて緊急時の協力体制を確認する機会になっている。行事と同日の会議には家族の参加が多い。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや市担当者と協力関係を築いている。	何かあれば市の担当者に相談し、昨年地震で停電の際に担当者から備蓄品などの問い合わせを受けている。生活保護担当者の来訪時には情報を交換している。行政主催の研修や会議に機会があれば参加し情報を収集している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	切迫性、一時性、非代替性を要する場合以外は身体拘束を行わない事を家族にも説明し、身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束等適正化指針に基づき、3か月ごとの「廃止委員会」に職員も参加し、全職員が情報を共有している。年2回の勉強会で身体拘束禁止行為や不適切なケアについて学び、事例の場面を取り上げ拘束をしない方法を話し合っている。利用者の行動を制止しない言葉遣いも確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する資料を用い、学ぶ機会を持つと共に職員間で虐待に繋がる言葉掛けや、態度を注意しあい防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年から制度を利用している入居者がいるが学ぶ機会を持っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際不安や疑問点を尋ね理解、納得をして頂ける様努めている。又面会や電話連絡の際いつでも説明、同意を得られるよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。又日頃からいつでも伝えて頂ける関係性を作れる様努めている。	敬老会後に家族会で意見を交換している。家族の来訪時に体調面などを報告する中で意見を聞いている。利用者の意向を伝えて家族との外出機会も話し合っている。担当職員が個別に便りを送り、暮らしの様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	イベントの開催の提案等職員の意見を反映させる機会を設けている。	ユニット会議では食事の形態など、ケアの対応について意見を交換したり、担当職員の行事提案について話し合い実施につなげている。管理者は日々職員の気懸りな事を聞き、個別面談も予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に管理者会議等を行い、給与水準を上げる努力や、やりがいのある職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て研修の機会を確保するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他GHとの交流はほとんどないが、地域ケア会議等に参加し、ネットワーク作りをする機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が安心して生活できるよう不安なことが無い か要望等傾聴し、ケアプランに載せ関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人も含め家族が不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人、家族が求めているサービスを見極められる様対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	集団生活の中で自分で出来る事ができるよう支援している。しかし出来る事を職員がしてしまう場面もみられることもある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話連絡の際に報告している。月に一回お便りを家族に向けて発行し、近況報告をし本人を支えていく関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人に会いに行ったり、馴染みの美容室通うなど関係が途切れないよう支援に努めている。また会いに来て頂きやすい雰囲気作りに取り組んでいく。	家族や親族に会う機会は多いが、昔からの知人も来訪している。地域の催しや普段の外出時に知人に会うこともある。家族とお墓参り、法事、外食や買物で外出している。昔からの嗜好に対応し、買い物で好きなお菓子などを選べるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつの際に責め合う様子が見られたため、職員が間に入り、孤立しないよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても本人や家族との関係性を必要に応じて対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に意向を聞き、家族の意見も取り入れながら情報の把握に努めている。直接表現できない入居者からは普段の仕草、や会話、職員の記録から本人の立場に立ち検討している。	利用者の意向を家族とも話し合い実現できるように対応している。入居後、情報の変化などはモニタリングで把握している。変化がある時にアセスメントを更新しているが心身状況の項目になっている。	入居時に家族が記入したセンター方式の情報があるので、その中で利用者視点の「B-3」シートを活用し、定期的に見直ししながら介護計画書1表の意向につなげることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係機関からの情報をもとに把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、職員間の情報共有、病院受診時の情報、本人との会話の中から現状を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ユニット会議を開催し、よりよく過ごせる様アセスメントしている。現状に即していない場合は介護計画の見直しを行っている。	計画作成担当者はユニット会議の情報や個人記録を参考にモニタリング評価を行い、利用者の状態に沿って3か月から6か月期間で介護計画を作成している。職員は介護計画を意識してサービスの実施や変化なども個人記録に記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と連動した介護記録を記入し職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で本人や家族のニーズに対応できる様心がけているが事業所の多機能化や柔軟な対応という面では取り組めていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人、家族、関係機関からの情報をもとに入居者を支える地域資源を把握するよう努めているが活用するに至っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診対応について、本人や家族の希望から入居前のかかりつけ医を継続している。	ほぼ市立病院の通院を継続して職員が対応し、変化がある時は家族に報告している。以前からの脳神経外科病院に家族が同行することもある。受診内容は利用者ごとに記録し経過を把握している。	

ふれあいの里 グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に24時間電話連絡、相談できる体制がある。週に一度入居者の体調管理や必要時様子をみてもらえるよう協力体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には病院関係者と情報提供をしている。医師から家族への説明の際には了承のもと参加させて頂いている。入院中は面会や看護師に現状の確認を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化にむけて家族と話し合いが行われているが終末期における対応や職員の技術習得など課題が残されている。	利用開始時に重度化対応や看取りで対応が可能な内容を説明し、同意を得ている。状態変化や緊急時には家族も同席して主治医の説明を受けている。可能な限り対応し、医療行為や食事が摂れない時は入院方向になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力を十分に身に付けているとはいえない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて避難訓練を実施し防災について地域の方や駅ビルの関係者等から協力して頂ける様お話をいただいている。	建物内の法人合同で避難訓練を行い、6月は日中を想定した自主訓練になっている。3月には運営推進会議と同日に消防署立ち会いで夜間を想定した訓練を予定している。昨年の課題は今後に予定している。	全職員の救急救命訓練の受講を計画的に行うことを期待したい。各防災対応マニュアルを分かりやすく整備するとともに、地震を想定し利用者ごとの各ケア場面の対応を話し合い、地震対応マニュアルに追加して定期的な確認を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、本人に合った言葉掛けや対応をしている。	書類はロッカーに保管し、記録中で離席する際は伏せている。職員は「ダメ」と言わないようにしており不適切ケア防止や接遇の研修も受講している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に思いや希望を聞き尊重するよう取り組んでいる。直接表現できない入居者からは普段の仕草、や会話、職員の記録から想いを汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援している。職員間で状況交換し、入居者の希望にそった支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の美容室を利用している。化粧をする等身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		

ふれあいの里 グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下拵えや準備など入居者ができることを一緒にしている。行事等で季節が感じられるメニューなど食事が楽しめるよう支援している。	食材が届き職員が調理しているが利用者が芋の皮むきなどの手伝いをしている。月に一度くらい食材を止め、利用者が食べたい料理の出前を取り寄せている。お祭りの出店で買って食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録、把握をし一日を通じて、一人ひとり確保できる様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりの力に応じた口腔ケアへの声掛けやセッティング、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の能力に応じ、極カトイレでの排泄を心掛けている。尿意や便意を認識できない方へは声掛けや誘導を行っている。	介護記録に排泄の状況を記入している。利用者ごとに排泄パターンと様子を観察して適切に誘導しており、失禁による不快な状況が無いようにしている。立位が保てる限りトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認や水分量の把握し、飲食物の工夫や運動への個々への働きかけを行っている。無排便が続いた際は服薬に頼っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが本人の希望に合わせて入浴できるよう支援している。	利用者は月木、火金、水土の午前でも午後でも好きなタイミングで湯船に浸かり入浴をしている。同性介助の希望にも対応しており、毎回湯を入れ替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ラウンジ内のソファや居室で休息したり、一人ひとりに合わせ安心して眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイリングし、随時確認できるようにしている。処方される薬に変更があった際は連絡ノートに記載し、職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換ができるよう地域のイベントに参加したり、嗜好品の煙草やコーヒーなどが継続できるよう支援している。		

ふれあいの里 グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット雅)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る範囲内で希望時に外出できるよう支援している。	稚内公園へ桜見物に出かけている。地域の祭りを見学したり、児童や中学生までの南中ソーラン踊りを見に行くこともある。個別に手芸の展示会や、1階のコンビニ、向かいのスーパーにお菓子を買っている。家族と外食をしたり墓参り、法事にでかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し、家族の了承を得ている場合少額なら所持できるよう配慮しているが、立替払いで必要時使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の力に応じ電話の代行や、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が不快を招くような音を出さないよう配慮し、快適に生活できる温度や湿度の調整している。季節感や生活感を感じられる装飾等、心地よく過ごせる様工夫している。	建物ビルの3階部分にあり、窓から海や幹線道路の車や人の往来が見える。季節の飾りや手作りカレンダーを掲示し、エアコンや空気清浄機能付き加湿器を使い、安心して生活ができる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に独りになれる空間はないが、ソファを配置し気の合う入居者同士ゆっくり過ごせる様支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の本人の使い慣れた家具や好みのものを活かし、本人や家族と相談しながら心地よく生活できる環境作りを心掛けている。	利用者により今までの生活リズムを変えないようベッドを使用せず布団を使用したり、テレビ、冷蔵庫、仏壇を置いてある部屋もある。自分らしく過ごせるよう利用者ごとに個性の出せる部屋として使っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所は全面バリアフリーとなっており、車椅子でも使用できる。必要箇所に手すりを設置している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019670012		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームわっかない絆 ユニット煌		
所在地	稚内市中央3丁目6番1号		
自己評価作成日	平成31年3月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

稚内駅ビル内にあり、同法人の高齢者向け住宅も併設され連携をとっています。公共交通機関の利用しやすく、ご家族や知人の方も訪ねやすく、地域のイベントにも参加しやすい環境にあります。地域や社会との繋がりを維持、継続できる様支援して行きます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0196700124-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と一緒に考えた理念がある。理念カードをネームプレートに蛍光し実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りやイベントなどに参加している。入居者と一緒に千羽鶴を折り、平和祭りにアーケードに展示してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々のケアの質を上げるため認知症の理解に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて地域で考えられる防災について検討している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや市担当者と協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	切迫性、一時性、非代替性を要する場合以外は身体拘束を行わない事を家族にも説明し、身体拘束をしないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する資料を用い、学ぶ機会を持つと共に職員間で虐待に繋がる言葉掛けや、態度を注意しあい防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年から制度を利用している入居者がいるが学ぶ機会を持っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際不安や疑問点を尋ね理解、納得をして頂ける様努めている。又面会や電話連絡の際いつでも説明、同意を得られるよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。又日頃からいつでも伝えて頂ける関係性を作れる様努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	イベントの開催の提案等職員の意見を反映させる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に管理者会議等を行い、給与水準を上げる努力や、やりがいのある職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て研修の機会を確保するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他GHとの交流はほとんどないが、地域ケア会議等に参加し、ネットワーク作りをする機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が安心して生活できるよう不安なことが無い か要望等傾聴し、ケアプランに載せ関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人も含め家族が不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人、家族が求めているサービスを見極められる様対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	集団生活の中で自分で出来る事ができるよう支援している。しかし出来る事を職員がしてしまう場面もみられることもある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話連絡の際に報告している。月に一回お便りを家族に向けて発行し、近況報告をし本人を支えていく関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人に会いに行ったり、馴染みの美容室通うなど関係が途切れないよう支援に努めている。また会いに来て頂きやすい雰囲気作りに取り組んでいく。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	独語や咳など、驚き言い争う様子が見られた際は職員が間に入り、孤立しないよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても本人や家族との関係性を必要に応じて対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に意向を聞き、家族の意見も取り入れながら情報の把握に努めている。直接表現できない入居者からは普段の仕草、や会話、職員の記録から本人の立場に立ち検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係機関からの情報をもとに把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、職員間の情報共有、病院受診時の情報、本人との会話の中から現状を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ユニット会議を開催し、よりよく過ごせる様アセスメントしている。現状に即していない場合は介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と連動した介護記録を記入し職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で本人や家族のニーズに対応できる様心がけているが事業所の多機能化や柔軟な対応という面では取り組めていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人、家族、関係機関からの情報をもとに入居者を支える地域資源を把握するよう努めているが活用するに至っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診対応について、本人や家族の希望から入居前のかかりつけ医を継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に24時間電話連絡、相談できる体制がある。週に一度入居者の体調管理や必要時様子をみてもらえるよう協力体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には病院関係者と情報提供をしている。医師から家族への説明の際には了承のもと参加させて頂いている。入院中は面会や看護師に現状の確認を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化にむけて家族と話し合いが行われているが終末期における対応や職員の技術習得など課題が残されている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力を十分に身に付けているとはいえない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて避難訓練を実施し防災について地域の方や駅ビルの関係者等から協力して頂ける様お話をいただいている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、本人に合った言葉掛けや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に思いや希望を聞き尊重するよう取り組んでいる。直接表現できない入居者からは普段の仕草、や会話、職員の記録から想いを汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援しているが、職員側のペースになってしまう場面もある。職員間で状況交換し、入居者の希望にそった支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室や、訪問の美容室を利用している。化粧をする等身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		

ふれあいの里 グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下拵えや準備など入居者ができることを一緒にしている。行事等で季節が感じられるメニューなど食事が楽しめるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録、把握をし一日を通じて、一人ひとり確保できる様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりの力に応じた口腔ケアへの声掛けやセッティング、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の能力に応じ、極カトイレでの排泄を心掛けている。尿意や便意を認識できない方へは声掛けや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認や水分量の把握し、飲食物の工夫や運動への個々への働きかけを行っている。無排便が続いた際は服薬に頼っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが本人の希望に合わせて入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ラウンジ内のソファや居室で休息したり、一人ひとりに合わせ安心して眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイリングし、随時確認できるようにしている。処方される薬に変更があった際は連絡ノートに記載し、職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換ができるよう地域のイベントに参加したり、嗜好品のコーヒーなどが継続できよう支援している。		

ふれあいの里 グループホームわっかない絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット煌)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る範囲内で希望時に外出できるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し、家族の了承を得ている場合少額なら所持できるよう配慮しているが、立替払いで必要時使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の力に応じ電話の代行や、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が不快を招くような音を出さないよう配慮し、快適に生活できる温度や湿度の調整している。季節感や生活感を感じられる装飾等、心地よく過ごせる様工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に独りになれる空間はないが、ソファを配置し気の合う入居者同士ゆっくり過ごせる様支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の本人の使い慣れた家具や好みのものを活かし、本人や家族と相談しながら心地よく生活できる環境作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所は全面バリアフリーとなっており、車椅子でも使用できる。必要箇所に手すりを設置している。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームわっかない絆

作成日：平成 31年 3月 25日

市町村受理日：平成 31年 3月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	本人の希望や意向を職員全員が把握できるようにしていきたい。	B-3シートを活用し個別の意向を記入し、見直していく。 いつでも追記できるようにする。	職員全員が都度追記できるようにする。	12ヵ月
2	35	全職員が救命救急講習を受講できるようにしていきたい。	消防署の協力を仰ぎ救命救急講習の受講。	全職員が3年に一度救命救急講習を受講できるよう対応していく。	12ヵ月
3	1	全職員が理念を共有できるようにしていきたい。	全職員が理念を共有し、日々のケアに繋げる。	年に一回理念をテーマに考える機会を作る。	12ヵ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。